事 業 報 告 書

令和3年7月１日より令和4年6月30日まで

特定非営利活動法人 光と風
理事長 渡邉 義美

１．事業報告の経緯

本法人は、東日本大震災における被災者聞き取り調査記録集「語り継ぐいいおか津波」の考えのもと、旭市及び隣接地域の復興観光まちづくりに寄与することを目的に活動を進めて来ました。

令和 2 年から続く新型コロナウイルス感染症は緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発令など三密を避ける活動の中で当法人の協働・連携・地縁による活動を止む無く休眠状態が続いています。

令和4年は震災から10年目の節目を迎え刑部岬展望館おいて「3.11東日本大震災10周年祈念の集い」を縮小して開催しました。

平成28年に創設した「旭いいおか文芸賞」は会員の高齢化と資金難で活動を休眠していましたが、令和4年6月一定の役割を果たし得たと判断し「高橋順子を囲む会」及び「文芸賞『海へ』実行委員会」は解散しました。

「復興かわら版」はいったん中止していましたが震災後のまちづくり、語り継ごう震災の記憶と記録を中心に64号、65号を発行しました。

また、震災以降、進行する地域の人口減少、被災者及び本法人会員の高齢化に歯止めは効かず、主要な活動の縮小に加えて、新型コロナウイルスの終息が見えない事態に本法人の活動の方向性が問われた1年間でした。

2. 事業実施報告

（1） 東日本大震災メモリアルとその教訓を活かした防災教育に関する事業

① いいおか防災教室

震災から学び災害に備える活動を支えて来た「防災教室」は幾つか要望はありましたが、政府・千葉県の自粛要請を受け止む無く受けほとんど休止しました。

② 復興かわら版

本年度は第64号、65号と2回発行しました。各号6000部発行、旭市飯岡地区

は全戸配布、旭地区及び千潟地区、海上地区は区長会経由で町内回覧を行っています。また、本法人が主催等の各種イベント等で配布しました。

（2）　復興まちづくりに資する事業

前年度に続き、復興お土産品として地元の産品を活用し、製造・販売する活動は、飯岡菓子研究会が道の駅「季楽里」を中心に活動を行っています。

（3）　復興観光に資する事業

①　紙芝居劇団「ふく」の活動

今年度「3.11東日本大震災10周年祈念の集い」（刑部岬展望館）で上演（まーくん、がんばれ）しました。

②　旭市防災士・サービス介助士ネットワーク

コロナ禍で活動は休眠状態です。

③　飯岡土人形保存会

「ドガミシモ飯岡土人形まちづくり隊」（代表：斉藤俊一）に移譲し、運営形態を変更しながら活動をしいます。

（4）　飯岡助五郎資料の保存等について

旧飯岡歴史民俗資料館にあった「飯岡助五郎」に関する資料（伊藤實コレクション等）について、その一部はユートピアセンター1階にある図書コーナー内に常設展示しています。

（5）　旭地域における円卓会議を運営する事業

令和 4 年5月23日、文化・芸術でまちおこしを考える人達に呼びかけ「復興と観光でまちを元気にする集い」を開催（いいおか福祉センター）しました。（参加者16名）

（6）　その他、本法人の目的を達成するために必要な事業

①　震災資料の保存展示・仮設住宅の運営について

三協フロンテア(株)から無償譲渡を受けた仮設住宅（1棟）は、地権者との契約を継続しています。

② 東日本大震災10周年祈念の集いの開催

昨年に続き新型コロナウイルスの自粛要請により規模を縮小、刑部岬展望館において2022年３月１１日実施しました。

③ 高橋順子を囲む会について

5月23日「高橋順子を囲む会」の総会にて解散しました。平成28年詩人・高橋順子氏を審査委員長に迎えて「旭いいおか文芸賞『海へ』」創設し、震災とその教訓を文芸を通じて後世に伝えて行くことなどを目的に5回開催しましたが、今後は2022年新生「ふるさと文芸賞」（主催：旭市教育委員会）と役割を交代することになりました。なお、旭市文化協会の加盟団体「海への会」として活動を継続し、同文芸賞へ協力する予定です。

（7） 他団体との交流

① 旭市文化祭への参加

令和3年11月6日「海への会」として「旭市を文化の盛んなまちへ」として展示で参加しました。

② 千葉県生涯大学校東総学園の講座

新型コロナウイルスの自粛要請に伴い令和3年は中止となりました。なお、令和4年は再開で、講師依頼を受けています。

以上